要求実現にがんばっています

この間、**生活福祉保健委員会**で取り上げた主な質問項目を紹介します。詳しくはホームページをご覧下さい。

子ども医療費助成拡充で受診抑制下げよ（10月19日）

子ども医療費助成制度と受診抑制率（子どもの生活実態調査／対象は小５・中２／2017年県実施）との関係を質問。受診抑制率は、医療費助成制度の対象年齢が小学３年生以下（７市町）が 1.17%、小学６年生まで（７市町）が 0.47%、中学卒業まで（12市町）が０%であり、「調査結果からも制度拡充の必要性は明らか」と、中学卒業までの拡充を求めました。

「しあわせの庭」破たんの検証、再発防止求める（11月19日）

2017 年 11 月に経営破たんした障害者就労継続支援Ａ型事業所の検証結果について質問。県内のＡ型事業所が４年間で 300 箇所から 429 箇所に急増しているにも関わらず、指導監査する県職員が６人のままだったことを重視。「再発防止のためにも指導監査の職員の増員を」と要求しました。

豊平病院、入院施設の存続を（11月19日）

北広島町長が旧豊平町で唯一入院できる豊平病院（現在 44 床）の無床診療所化を表明した問題で、辻議員は「県地域医療構想で県は何床必要だとしているか」と質問。担当課長は「19 床」と答え、辻議員は「ゼロ床では医療崩壊になる。医療難民が出ないよう町に指導・助言を」と要望しました。

国保、公費負担増を求める（12月５日）

辻議員の質問で、昨年度の県の滞納世帯は５万 8451 世帯（15%）、差押えは 6456 件（23 億 6090 万円）と判明。国保料は協会けんぽの約２倍で、辻議員は「国保料の引き下げは急務。国に対して国保の公費負担増を求めるとともに、県も負担軽減を図れ」と求めました。

学童保育、基準緩和の中止を（12月13日）

政府が学童保育職員の基準を、現状の「２人以上配置、有資格者」から緩和しようとしている問題で、辻議員は「指導員の研修や処遇改善が必要」と要求し、基準を緩和しないよう求めました。

12月県議会

●7月豪雨災害対策 累計2200億円

12月補正予算の豪雨災害対策分は２０９億円。豪雨災害対策で開かれた８月臨時会、９月補正を合わせると累計２２１０億円（特別会計含む）になりました。

その他、大学等進学奨学金の給付１億４９００万円（募集定員１００人を３４９人に拡大）、児童福祉施設のブロック塀対策に３３００万円が予算化されました。

●ゆきとどいた教育を求める請願

ゆきとどいた教育を求める請願が、35人以下学級の前進などを求める公立分５８９５筆、公私間格差の是正などを求める私学分１万８８９筆のそれぞれの署名とともに出されました（紹介議員は辻議員）。

不採択になりましたが、運動をさらに広げていきましょう。

●子ども医療費の請願 5度目継続審査に

子ども医療費助成を中学３年まで拡充する請願が所管委員会で審議され、辻議員が賛成討論。民主県政会の議員が継続審査を求め、採択の結果、昨年12月以降、５度目の継続審査になりました。

●課題解決人材の単科大学開設が決定

２０２１年４月から、実社会の課題を解決する人材を育成する新単科大学が開設されることになりました。その一年前には現在の県立大学の再編も行われます。

同大学の中期目標が審議され、辻議員は、①教職員の削減や、教育研究費の外部調達化の懸念がある、②単科大学の教授会が学生の教育に責任をもつことが困難になる――などの理由で反対しました。

●叡智学園建設に69億円 エリート養成より35人学級を

今年４月開校予定の広島県立広島叡智学園中学校・高等学校の新築工事（２期）の請負契約（21億円）が締結され、ハード整備だけで計69億円になりました。

広島県は35人学級が小学２年生までと全国で一番遅れており、エリートづくりではなく、どの子にもゆきとどいた教育を推進するべきです。

障害福祉を語るつどい　災害時の避難に課題

辻議員は 10 月 16 日、「障害福祉を語るつどい」で県の７月豪雨災害の対応や障がい者施策について、河村ひろ子福山市議は福祉避難所などの課題について報告。参加者からは「障がい福祉サービスの移動支援を使い避難したい」などの要望が出されました。

たくさんの意見・要望が出されたつどい。＝10月16日、福山市西町

グループ補助金 被災業者に寄り添ったものに

豪雨災害対策懇談。＝11 月 30 日、福山民商会館

辻議員は 11 月 30 日、大平喜信前衆院議員、党福山市議団とともに、福山民商と、７月豪雨災害対策の懇談をしました。グループ補助金と持続化補助金について、「中小企業に寄り添った運営に改善を」などの要望が出されました。

鞆の浦「後山」の地質調査 崩壊した石積み堰堤を発見

県が鞆の山側トンネル案を 12 月に提示したことを受け、辻議員は１月 12 日、地質学研究者の越智秀二氏、土屋知紀福山市議と一緒に、鞆の浦を形成している「後山」の岩石採取、地層観察などを行いました。崩壊した石積みの治山堰堤もあり、対策が必要です。

鞆の「後山」の地質調査。＝１月 12 日、福山市鞆町

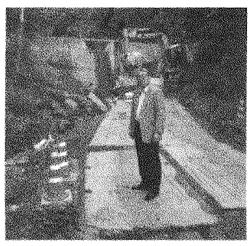
砂防ダムの堆積土砂「除石計画」で定期的撤去を

社会基盤整備対策特別委員会 11月8日

７月豪雨災害では県内６０９渓流で土石流が発生、その内１０７渓流に１９６基の砂防ダムがあります。

辻議員の「今堆積している土砂を除くことは急務だが、除石計画を立て計画的に除石している京都府のように、本県も除石計画を作り定期的な除石をしてはどうか」と提案。担当課長は「広島の渓流では、日常的には土砂の流出は無いので、５年に一度の定期点検で適切に維持出来ている」と回答。

辻議員は、「今回も４年前も想定外の大雨が降って大災害になった。これまで以上の対策が必要だ」と再度、要望しました。



崩れた治山ダム（奥）を調査する辻議員。＝10 月 31 日、福山市加茂町